

大阪中河内地域 地域活性化プラン

平成19年7月策定

大阪中河内地域活性化推進協議会

1. 大阪中河内地域における地域活性化の目標・方向性

1-1 大阪中河内地域における地域産業の現状と課題

大阪中河内地域(東大阪市・八尾市・松原市)(以下「中河内地域」という)は、16年事業所統計調査(簡易)で見ると、府下では大阪市地域に次いで事業所数の多い地域である。

総事業所数は、46,895事業所で府下全体の10.3%を占めている。業種構成を新産業大分類で見ると、①製造業、②卸・小売業、③サービス業の順で多い。中でも、製造業は府下全事業所の21.9%に当たる、12,567事業所があり、大阪府域を除くと突出して多く、府下における一大集積地域となっている。卸・小売業も府下第2位の事業所数を有するものの、次位地域との差は小さく、その他の業種では、三島地域や泉北地域等に二位の座を譲る。

この事から、本大阪中河内地域は業種的に、製造業に特化した産業構造となっている。さらに、製造業における従業者数では、府下全体の15.5%を占めるものの、数での割合を5.4ポイント下回っており、一般的に知られるごとく、中小零細工場の密集する「ものづくり」が盛んな地域と言える。

この集積を生かしたものづくりの特徴の一つとして、ニッチ市場におけるナンバーワン企業やオンリーワン企業が数多く立地している事があげられる。これは、多種多様な製造業の存在が高度な分業体制を可能にし、その結果、個々の事業所が自社の得意分野に特化出来た事によると言われている。

このように、主として製造業における基盤的技術産業を中心に発展し、現在も「一般機械器具製造」「金属製品製造」「電気機械器具製造」分野においては確固たる地位を占めるに至っている。しかし、近年、経済のグローバル化に伴う、安価な海外製品の大量流入による競争激化や、国内大企業のアジア諸国への生産拠点移転による市場規模縮小など、厳しい環境に直面している。

今後は、鋳螺、金網、作業工具、ブラシなど地場産品の高付加価値化を図るとともに、通信、環境、福祉分野等々においての、新たな成長産業の創出が課題とされている。

また、製造業の動向が本地域産業に与える影響は大きいものの、一部には文化・歴史的遺産や観光資源、農業も顕在しており、これら資源を利用した産業開発も充分、地域活性化の一翼を担うと期待される。

1-2 新たな地域産業創出の必要性と可能性

このような地域産業の現状から、大阪中河内地域における新たな地域産業創出の必要性として、以下の点が挙げられる。

「中河内地域 新たな地域産業創出の必要性」

- 金属加工を軸としたものづくり産業が高度に集積し、ニッチ市場におけるトップシェア企業も多い。今後の地域活性化に向けては、個々の企業が自社得意技術を活かして新分野に挑戦出来る、新たな地域産業の創出が必要である。

また、新たな地域産業の創出にあたっては、チャレンジ精神豊かな経営者の多い事や異業種間交流が活発であるといった地域の特性から、以下のような可能性がみられる。

「中河内地域 新たな地域産業創出の可能性」

- 多種多様な技術集積を生かすことが出来るロボット産業や、人工衛星によって触発された航空宇宙産業の拡大への可能性が期待される。
- 信貴生駒山麓の自然や歴史史跡、文化・伝統にスポットを当てた観光産業の進展への期待。
- 都市近郊農業ならではの利点を生かした取り組み。例えば、時代にマッチした「大阪エコ農産物」認証の地場野菜のブランド化。

1-3 中河内地域の特性・産業資源

大阪中河内地域の特性と産業資源について、以下の通り概観した。

「中河内地域の特性と産業資源 概観」

- 金属やプラスチック等のものづくり産業の集積が特徴となっている。地場産業としては、伸線、金網、ブラシ、撚糸、作業工具、鋸螺、鋳物等があげられる。
- 多種多様な製造業が存在し、加工を中心とした業態が多い中、自社ブランドやトップシェア製品を持つ企業も多い。
- 文化遺産、史跡、信貴・生駒山麓の自然などは観光資源と考えられる。
- 一部では特徴ある農産物の栽培も行われており、「大阪エコ農産物」認証を得ている農家もある。

中河内地域資源の状況

分類	個別地域資源
産業技術資源・産業集積資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産業の集積、「モノづくりのまち」としての全国的ブランド — 東大阪市 ● 東大阪市モノづくり親善大使 — 東大阪市 ● 環境、介護、ロボット、農林水産、航空宇宙関連事業工業デザイン — 東大阪市、八尾市 ● ものづくり産業集積(金属製品、一般機械器具、プラスチック製品、電気機械器具、紙工・印刷) — 八尾市 ● 歯ブラシ・各種ブラシ製造業の集積 — 八尾市 ● 「八尾ものづくり達人顕彰」(新製品開発優良中小企業表彰) — 八尾市 ● 河内木綿とその伝統を受け継いだ擦糸産業 — 八尾市 ● 大阪仏壇 — 東大阪市、八尾市 ● 大阪欄間 — 松原市 ● 金網製造業の近代化 — 松原市 ● 印材、真珠核等伝統産業の継承事業 — 松原市
農林資源	<ul style="list-style-type: none"> ● まったら愛っ娘～松原育ち～(大阪エコ農産物)、一寸そら豆、枝豆、こまつな、ねぎ、河内合鴨等の農畜産品 — 松原市 ● エコ農産物 — 東大阪市
観光文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 枚岡神社の梅林(環境省「かおり風景100選」に選ばれる。) — 東大阪市 ● 石切劔箭神社と参道商店街 — 東大阪市 ● 司馬遼太郎記念館 — 東大阪市 ● クリエイション・コア東大阪 — 東大阪市 ● 東大阪市花園ラグビー場 — 東大阪市 ● 玉串川の桜並木 — 八尾市 ● 金剛生駒紀泉国定公園の一角、心合寺山古墳等の史跡 — 八尾市 ● 河内音頭 — 八尾市 ● 蘇我・物部戦争史跡 — 八尾市 ● 八尾空港 — 八尾市 ● 常光寺 — 八尾市 ● 開運松原六社参り — 松原市 ● 久宝寺寺内町 — 八尾市 ● 鴻池新田会所 — 東大阪市
特産物	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特産と認められる加工食品 — 東大阪市・八尾市・松原市

1-4 地域活性化の目標・方向性

中河内地域の特性と産業資源を踏まえて、地域資源を活かした新たな産業の創出に関する目標・方向性として、以下を取り上げる。

【中河内地域活性化の目標・方向性】

ものづくり企業の集積を活かした成長産業への取り組みと、
歴史・観光・農業に着目した地域活性化

中河内地域には、多種多様なものづくり関連企業の集積メリットがもたらせた高度な加工技術や多くのトップシェア企業を生み出した獨創性、チャレンジ精神が有る。これらの資源を活かし、ロボット関連産業、介護・福祉関連産業、航空宇宙関連産業等の成長産業への足掛かりとなる開発を重点的に進める。さらに、見逃されがちな文化歴史的遺産、観光、農業資源を活かすことの出来る開発も積極的に勧める事で、厚みのある活性化事業を目指す。

2. 地域資源を活かした新しい事業の創出方策

2-1 地域資源の活用イメージ

地域の特性や地理的条件、豊富な産業資源や活用の可能性が期待される地域の大学・研究・支援機関の立地状況から、大阪中河内地域における地域資源の活用イメージとして、以下をあげる。なおこれは、今後、産業資源の発掘状況によっておのずと変化していく性質のものである。

「中河内地域ブロック 地域資源の活用イメージ」

- ①地場産業の技術・製品を活用した事業。
- ②金属加工技術を活用した事業。
- ③文化・歴史・観光資源を活用した「ものづくり」や「まちづくり」に関連する事業。
- ④農業資源を活用した事業。
- ⑤地域の産学官連携による事業。
- ⑥上記組み合わせにより、地域ブランド力の形成を図る事業。

2-2 重点的に支援すべき事業分野

平成18年度調査『地域資源現況調査事業』やヒアリング等で明らかになった地域資源に基づき、1-4に記載した地域活性化の目標・方向性を踏まえ、今後の地域ブランド形成に資するとみられる代表的な地域資源を重点的に支援すべき地域資源として、以下に抽出した。また、これら資源の担い手、支援者として期待される資源、今後の発掘や活用が期待される資源も併せて抽出・記載

した。

なお、これらも先に挙げた地域資源活用イメージと同様に、今後、産業資源の発掘状況によっておのずと変化していく性質のものである。

【中河内地域ブロック 重点的に支援すべき地域資源等】

分類	地域資源など	
重点的に支援すべき代表的地域資源	伝統的地場産業技術	金網、鋳物、作業工具、鋳螺、ブラシ、伸線、印材、真珠核等 河内木綿（撚糸）
	金属加工技術	一般機械器具、電気機械部品加工等
	農業資源	ねぎ、一寸そら豆、枝豆、若ごぼう、紅蓼、こまつな、大阪しろな、河内合鴨等
	文化・歴史・自然資源	心合寺山古墳、司馬遼太郎記念館、玉串川の桜並木、枚岡梅林、河内音頭、ラグビーグッズ、開運松原六社参り等
担い手としての地域資源	トップシェア企業、地場産業企業老舗、異業種交流グループ、大阪府農の会	
支援側としての地域資源	㈱大阪シティ総合研究所、クリエイション・コア東大阪、JA大阪中河内、近畿大学生物工学部、東大阪観光協会、河内木綿藍染保存会、枚岡神社、東大阪市立産業技術支援センター、市役所、商工会議所	
今後の発掘や活用が期待される地域資源	地域一帯となった成長分野での技術開発・製品開発、産業観光、八尾空港、豊富な人材活用事業	

2-3 事業創出に向けた具体的方策

中河内地域では後述する地域活性化推進協議会を中心に、地域資源を活用した新事業創出に向けて、以下の方策等によって取り組むものとする。

- 地域資源活用産業や大阪中河内の地域資源に関連する広報普及活動
- おおさか地域創造ファンドや国の制度等に関する説明会開催
- マーケティングや地域ブランドの専門家等によるセミナー・講習会
- 地域コーディネーター等による地域資源、担い手等の発掘開発
- 地元のNPOやまちづくりグループ等との連携による事業シーズ発掘
- 地域の研究機関・大学との産学連携促進に向けたニーズ・シーズマッチングの促進等

3. 地域活性化の推進体制の促進

3-1 地域推進活性化協議会の設置・運営

中河内地域では、関係市、商工会議所、金融機関及び同シンクタンクを構成員とする「大阪中河内地域活性化推進協議会」（以下「大阪中河内地域活性化推進協議会」という）を平成19年5月9日に設置し、ファンド助成対象事業の選定及び支援の実施主体とする。

同協議会は、東大阪商工会議所が事務局を担い、運営に当たるものとし、同商工会議所に地域活性化コーディネーターを配置し、地域活性化プランの推進をはじめ、ファンド事業全般を推進する専門人材として位置付け、これら業務にあたるものとする。

【大阪中河内地域活性化推進協議会 構成メンバー】

- ・ 東大阪市、東大阪商工会議所
- ・ 八尾市、八尾商工会議所
- ・ 松原市、松原商工会議所
- ・ 株式会社日本政策金融公庫東大阪支店
- ・ 大阪信用保証協会東大阪支店
- ・ 株式会社大阪シティ総合研究所

【大阪中河内地域活性化推進協議会 事務局】

- ・ 東大阪商工会議所

また、助成対象事業の選定は公募によるものとし、選定に際しては、外部有識者等で構成する助成事業選定委員会を設置するものとする。

【大阪中河内地域助成事業選定委員会 構成メンバー】

- ・ 近畿大学リエゾンセンターセンター長
- ・ 理学博士
- ・ 工学博士
- ・ 中小企業診断士
- ・ 税理士

3-2 支援機関・関係団体の役割

ファンド事業を効果的に推進し、地域活性化に資するため大阪中河内地域活性化推進協議会を構成する支援機関・関係団体・構成員のみならず、大阪府・東大阪市立産業技術支援センター、金融機関、大学、大阪産業経済リサーチセンター、公益財団法人大阪産業振興機構等の機関・団体、関係職員の知識・経験・技術・ノウハウを結集して推進していくものとする。

【中河内地域において、特に連携を期待する関係機関等】

- ・ 東大阪市立産業技術支援センター
- ・ J A大阪中河内
- ・ 東大阪観光協会

- ・ 近畿大学生物理工学部
- ・ 河内木綿藍染保存会
- ・ クリエイション・コア東大阪等

4. 助成対象事業の選定・支援

下記4-1～3の内容については、大阪中河内地域支援事業助成金交付要綱による。

- 4-1 助成対象事業の要件
- 4-2 助成対象者の要件
- 4-3 助成率、助成限度額

5. 事業目標の設定と評価

5-1 事業目標の設定

(1) 事業目標

おおさか地域創造ファンドによる支援事業計画に掲げる事業成果に係る目標に準じて、事業実施期間(10年間)終了後の成果目標として、おおむね以下の通り設定する。

- ① 支援事業(プロジェクト)件数
おおむね40～50件(単年度あたり4～5件)
- ② 支援事業(プロジェクト)の参加企業数
おおむね80～100件(単年度あたり8～10件)
- ③ 支援事業のうち中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認を得た数
おおむね20～30件(単年度あたり2～3件)

5-2 事業評価の方法と体制

上記事業目標の達成については、大阪中河内地域活性化推進協議会において評価を行うとともに、公益財団法人大阪産業振興機構に設置する「ファンド事業審査委員会」において、毎年度、評価を受けるものとする。

【改訂等履歴】

平成19年7月策定

平成20年6月改訂

平成21年1月改訂

平成22年1月改訂

平成23年3月改訂

平成24年3月改訂

平成25年3月改訂

平成26年3月改定

平成27年3月改定

平成28年3月改定